

深い学びを目指した ICT の活用

中川一史 (D-project 会長/放送大学 教授・博士)



中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2016)「次期学習指導要領に向けた審議のまとめについて(報告)」によると、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、図1のように、いわゆる資質・能力の3本柱と全体で絡んでいることを示しています。もともと、「何ができるようになるか」(能力)と「どのように学ぶか」(方法)であり、軸が違うので、齟齬はないわけです。「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、その後、新学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」と表記が統一されています。つまり、前の2つは「深い学び」にかかるのです。そして、この深い学びを実現するためには、図1で示されている「生きて働く」知識・技能の習得、「未来の状況にも対応できる」思考力・判断力・表現力等の育成、「学びを人や社会に生かそうとする」学びに向かう力・人間性等の涵養という3つの枕詞(「」内)がとても重要なキーワードとなります。例えば、図1の上部には、「資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりすることを含む。」と記されており、この枕詞の一端を表しています。いずれにしても、これら枕詞に着目し、授業を構成していくことこそが、深い学びを実現することにつな

がるものと思います。

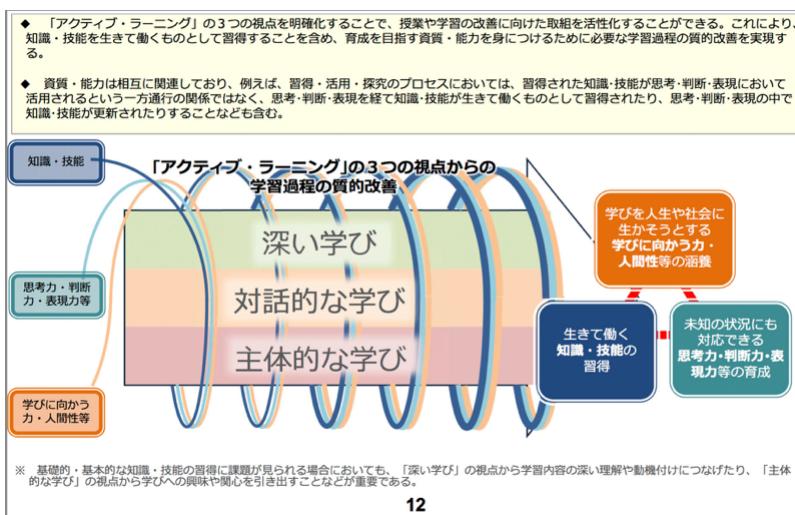


図1 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2016)「次期学習指導要領に向けた審議のまとめについて(報告)」より

この「審議のまとめ」の他のページでは、図2のようなイメージが示されていますが、ここで描かれている学習活動場面では、いみじくも「ICTを活用した学習活動場面」と「ICTを活用していない学習活動場面」が対になって示されています。まさに「深い学び」を目指した先にICTの活用が手段の1つとして想定されているものと考えます。と同時に、学習活動のOne of themなのです。

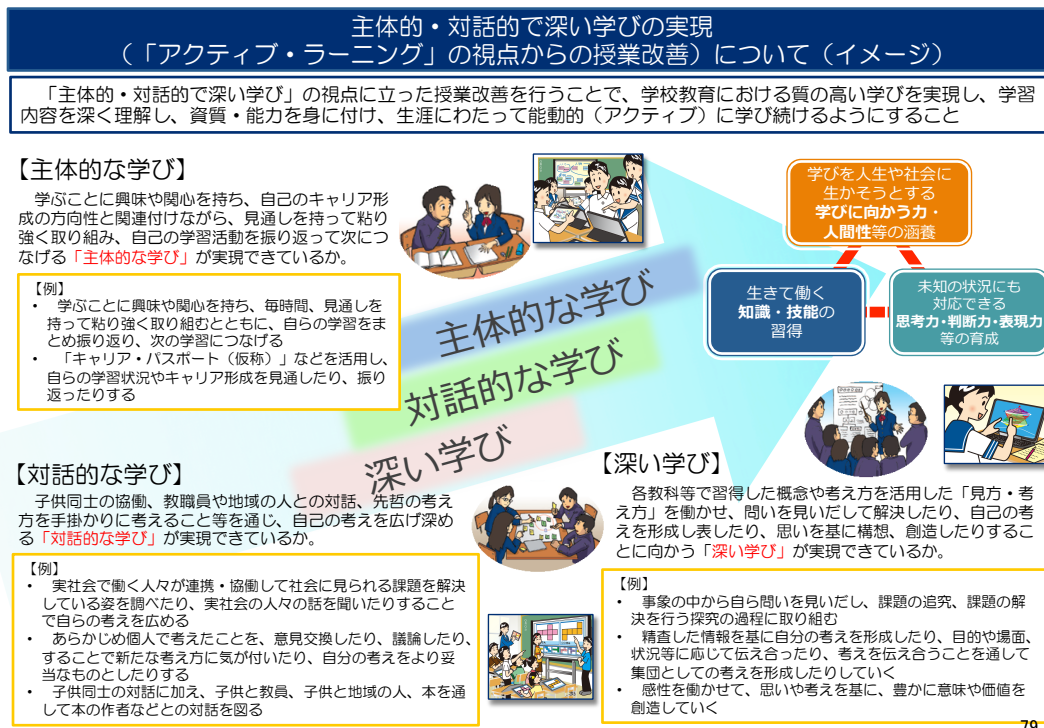


図2 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2016)「次期学習指導要領に向けた審議のまとめについて(報告)」より

D-projectでは、発足当時からICTに振り回されることなく、授業デザインを追究していくことを主眼に置き、メディア表現学習の実践、研究、普及、交流を行ってきました。本日の公開研究会で何度も図3の到達目標が話題に出されることと思います。自身の実践につなげ、実践を振り返って、明日からのエネルギーに転換いただくことを切に願っています。

●D-project 関連の書籍

つなぐ・かかわる授業づくり：タブレット端末を活かす実践 52 事例
D-project 編集委員会（2014）学研教育出版

タブレット端末で実現する協働的な学び
中川一史，寺嶋浩介，佐藤幸江編著（2014）フォーラム・A

ICT で伝えるチカラ
中川一史監修（2013）フォーラム・A

電子黒板が創る学びの未来―新学習指導要領 習得・活用・探究型学習に役立つ事例 50―
中川一史，中橋 雄編著（2009）株式会社ぎょうせい

小学生が作ったホンモノパンフ―企業のパンフレット作りから生まれた子どもの学び
中川一史，北川久一郎，山田康子，山本直樹（2005）高陵社書店

～会長，副会長の書籍～
メディア・リテラシー教育―ソーシャルメディア時代の実践と学び
中橋 雄編（2017）北樹出版

フィンランドの教育～教育システム・教師・学校・授業・メディア教育から読み解く～
北川達夫，中川一史，中橋雄編著（2016）フォーラム・A

タブレット端末を活用した 21 世紀型コミュニケーション力の育成
中川 一史，山本 朋弘，佐和伸明，村井万寿夫編著（2015）フォーラム・A

小学校国語 情報・メディアに着目した授業をつくる
中川一史監修，国語と情報教育研究プロジェクト編著（2015）光村図書出版

情報化社会と教育

苑 復傑，中川一史編著（2014）放送大学教育振興会

メディア・リテラシー論 ソーシャルメディア時代のメディア教育

中橋 雄著（2014）北樹出版

メディアプロデュースの世界

中橋 雄，松本恭幸編（2013）北樹出版

ICT 教育 100 の実践・事例集

中川一史監修（2011）フォーラム・A

まんがで知る教師の学び～これからの学校教育を担うために～

前田康裕，さくら社，2016

まんがで知る教師の学び2～アクティブ・ラーニングとは何か～

前田康裕，さくら社，2017